フェムテック補助金を使用した実証事業を開始

ライオンCoCoRe

ートサービス実証事業費補助金」の採択事業として、スマホアプリ「CoCoRe（ココリー）」を用いた実証事業を開始した。

ライオンは、経済産業省の令和6年度「フェムテック等サポ

この実証事業では、女性の健康施策に取り組む杏林堂薬局、シミックホールディングス、日本特殊陶業の協力を得て、女性社員を対象に実施する。

ココリーは、PMSや更年期などにおけるイライラや落ち込みといった心の不調に悩む女性向けのアプリで、働く女性の「考え方のくせ」を変え、不調の改善や働き方に対する前向きな気持ちへの切り替え、幸福度の向上を目指している。

女性特有の健康課題による社会全体の経済損失は年間約3・4兆円にのぼると言われており、多くの女性がホルモンに起因する不調と闘いながら日々を過ごしている。PMS、更年期障害、不妊治療、産前産後のトラブルなど女性の健康課題の多くは身体的な不調だけではなく、心の不調がともない、多くの女性がこの「心の不調」に悩まされている。

特に働く女性において、心の不調は生産性の大幅な低下や幸福度の低下にもつながり得ることから大きな社会課題となっている。この不調の原因は女性ホルモンの影響等の生物学的要因だけではなく、「個人の気質」といった心理学的要因も大きく関わっているため対処が難しく、身体的な不調のケアに比べて有効なセルフケア製品・サービスが未だ少ないことが現状だ。

ココリーは、女性特有の心の不調の中でも、特に働く女性の労働生産性を損なう原因となっているPMSや更年期に焦点を当て、これまで有効な解決手段が提供されてこなかった個人の気質である「考え方のくせ」の改善に着目し、ACTという認知行動療法に基づくセルフケアプログラムの実践について実証事業を開始する。対象者は杏林堂薬局、シミックホールディングス、日本特殊陶業の女性社員で、日常生活の中で週3日以上12週間利用してもらい、利用前と6週間ごとのアンケートにて調査し、心の不調の改善と、それによるキャリア意識の向上、WHO−HPQを用いたアブセンティーズム、プレゼンティーズムの評価、主観的・協調的幸福度の低下防止、幸福度の向上について確認していく。

「ジャパンメイド・ビューティアワード」で審査員賞受賞

天真堂

国内有数の老舗プロテインメーカーである天真堂は、9月30日にDiet&Beauty Fair2024内にて行われた日本の美容・モノづくりの魅力を国内外に発信する「第10回ジャパンメイド・ビューティアワード」にて、同社製品の「エクサスリムLCDスーププロテイン」が審査員賞を受賞した。

ジャパンメイド・ビューティアワードは、全国から地域の魅力ある商材がエントリーされ、百貨店やセレクトショップ、ドラッグストア、通販、美容施設等の第一線で活躍するバイヤーや、業界キーパーソンで構成されるアワード審査員が審査を行う。同社は、今回の受賞につながっている」とコメントした。

受賞について「近年注目を集め始めているスーププロテイン業界において、これまで20年以上にわたり自社工場でスーププロテインの製造販売を行い、長年の経験と技術を蓄積してきた。先行者として味と品質にこだわりぬいてきたことが、今回の受賞につながっている」とコメントした。

エクサスリムLCDスーププロテインは、1食あたりのたんぱく質が10gの設計で個包装されており、どこへでも手軽に持ち運べる。温かいスープや冷製スープとして、どんな場所でも気温や気分に合わせて美味しいリラックスタイムを提供するという。2024年7月に個包装タイプのスーププロテインのラインナップを6種類に拡充した。今後の展開については「お客様のニーズに応えるユニークなフレーバーの開発を進めるとともに、お客様の健康と美容をサポートする高品質なプロテインの提供に努めていく」（同社）としている。

私のH&B日記

おもちゃ病院

早いものでもうすぐクリスマスシーズンが到来し、来月で5歳になる娘のプレゼントを決める時期になってきた。

昨年は、娘の友だちが持っていたペットトイ「ココさかだちして」を欲しがっていたのでクリスマスにプレゼントし、つい最近まで遊び倒していた。

このペットトイは、「ココ さかだちして」と声がけをすると、後ろ足を浮かして逆立ちする。ほかにも、ダンスや腕立てなど合計24種類の言葉に反応し、本物のペット顔負けの特技を披露してくれる。

最近まで毎日のように遊んでいたのだが、何カ月も遊びすぎてついに足が故障してしまった。おもちゃを修理してくれるところを探していると、全国各地におもちゃの修理を原則無料のボランティアで行う「おもちゃ病院」があることを知った。

早速、近所のコミュニティーセンターで定期的に開催されるおもちゃ病院を尋ねると、エプロン姿の優しいご年配のおもちゃドクターが出迎えてくれた。

おもちゃドクターの多くは、定年退職後にそれぞれの趣味や特技を活かして活動するシニア世代だ。彼らは、直しておもちゃを子どもたちに渡して笑顔を見られることを生きがいとし、日本おもちゃ病院協会が主催する講習での情報交換や研修を通してスキルアップを図り、楽しんで修理活動に取り組んでいるのだそうだ。

おもちゃドクターに修理してもらい、また毎日のように遊んでいると、今度は修理したところと別の足が故障し、再びおもちゃ病院にお世話になった。1回目は当日で治ったが、2回目は1カ月ほど入院してつい先日、我が家に戻ってきた。

ちなみに、今回お世話になったおもちゃ病院とおもちゃドクターを支援する日本おもちゃ病院協会は今年10月、任意団体から一般社団法人へと移行した。これを機におもちゃドクターの養成やおもちゃ病院の開設、運営支援など様々な活動を行う同協会の認知がより一層広がり、今後のさらなる発展に期待したい。（之）

JACDS

委員会・検討会統括管理を新設

日本OTC医薬品協会理事長を顧問に招聘

日本チェーンドラッグストア協会（JACDS、塚本厚志会長）は10月18日に開催した理事会で、組織変更を決議した。事務総長職を廃止し、その権限を会長と新たに定義する事務局長に移管する。また各委員会の活動や関係省庁から招聘される検討会、ワーキンググループでの発言や決定事項をJACDS内で共有するため、委員会・検討会統括管理を新設し、事務総長だった田中浩幸氏が担当する。その経緯について、同日開催のドラッグストア記者会で塚本会長は次のように説明した。

「JACDSが発足して25年が経過し、当時の組織、規約・規定を活用して運営している。支障をきたしているわけではないが、将来の社会貢献や関係省庁との協力連携を含め、よりスピードをもって意思決定し、我々が目指す方向を具現化できるような体制をつくる意味で、組織を改編した」

併せて、関係省庁との関係構築や外部に向けての情報発信を充実させるため、日本OTC医薬品協会理事長の磯部総一郎氏を顧問として招聘する。「アドバイザーという形で外部から様々な形でアドバイスをいただくため、顧問契約を結びたいと考えている。JACDSと日本OTC医薬品協会が同じ方向を目指しているという理解のもとに、我々の活動をご支援いただく」（塚本会長）

田中浩幸氏